



子宮筋腫を切らずに治す

～子宮動脈塞栓療法～



東京女子医科大学附属八千代医療センター
画像診断・IVR科 遠田譲

子宮筋腫とは？

閉経前の女性の25%程度に見られる良性腫瘍(平滑筋腫^{※1})です。女性ホルモンのエストロゲンによる慢性的な刺激が原因です。従って、閉経後は自然に縮小します。無症状で偶然見つかることがほとんどですが、10～20%の方は症状があります。

◎ 治療が必要となる子宮筋腫

月経過多による貧血、月経困難(月経時腹痛や腰痛)、腰痛、下肢痛(坐骨神経痛)、頻尿、排尿障害、便秘などの症状がひどい場合です。

※ごく稀に平滑筋肉腫やそれに類似した軟部組織悪性腫瘍が疑われ、鑑別診断が必要となることがあります。この場合は手術が検討されます。

◎ いろいろな治療方法

- 鎮痛剤や貧血改善薬(鉄剤)の内服で様子を見る、または何もしない
- ホルモン療法(副作用がある。長期間使用できない。再発がある)
- 子宮全摘術または筋腫核出術(子宮筋腫だけを取る)などの開腹手術
- FUS(収束超音波治療)…熱して壊死させる
- 凍結療法(MRIガイド下)…凍らせて壊死させる
- 子宮動脈塞栓術…左右の子宮動脈をゼラチンスポンジなどで詰める(梗塞させる)

子宮動脈塞栓術の原理

正常子宮筋層、子宮筋腫はどちらも血液の大部分を左右の子宮動脈から受けています。正常子宮筋層は子宮動脈塞栓後に卵巣動脈や腔動脈、他の骨盤内の動脈の細い枝からの血液が入り、24時間以内に血流が回復し、壊死しません。それに対して、子宮筋腫には子宮動脈(ごく稀に卵巣動脈)の枝だけが入り、子宮動脈塞栓後に周囲臓器の動脈の細い枝からの血液が入ることはなく、血流が回復しないので、子宮筋腫は壊死して、その後再発しません。

※1 血管や消化管を構成する筋層にある平滑筋から発生する良性の腫瘍。



東京女子医科大学
八千代医療センター
TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHYO MEDICAL CENTER



◎ 子宮動脈塞栓術の概要

八千代医療センターでは2泊3日の期間です。社会生活への復帰は1～2週間後です。現在自由診療となっております。費用はおよそ40万円弱かかります。

- 治療のゴール…閉経まで日常生活に支障がない程度の症状になる ※筋腫を全てなくすことが目的ではありません

◎ 結果

過多月経の改善は81～100%、圧迫症状の改善は64～100%、子宮筋腫の体積の平均縮小率は44～73%、治療に対する満足度は84～100%です。約5～10%で卵巢動脈に支配された子宮筋腫が子宮動脈塞栓術後に小さくならないことがあります。(症状によって追加治療します)最終的に90%以上の確率で手術を回避できます。

◎ 合併症

世界で数万例の子宮動脈塞栓術が行われたと考えられていて、死亡例は数例(いずれも外国の報告で、敗血症や肺塞栓症)です。子宮、卵管の感染は1～2%、子宮摘出が必要となることは1ヶ月以内0.38%。平均1～2%です。自然経過のひとつですが、10%程度で筋腫分娩となり、娩出された筋腫の経腔的除去が必要になります。永久的な卵巢機能不全(早期閉経)は1～14%(平均5%)で、大半が45歳以上の患者さんです(40歳以下では約1%)。塞栓術後症候群(発熱、痛み、吐き気、食欲不振、全身倦怠感、炎症反応)が様々な程度で見られます(数日間)。痛みに対しては静脈内注射の鎮痛薬を使用し、良好なコントロールが得られます。子宮動脈塞栓術後に100例以上の妊娠、50例以上の出産が報告されています。

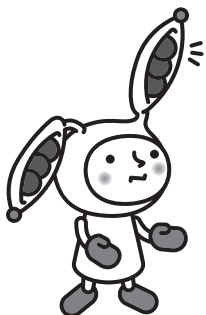
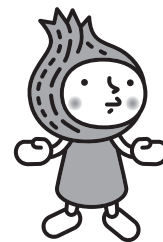
◎ 子宮動脈塞栓術の対象とならない人

- 閉経後や妊娠中
- ホルモン療法3ヶ月以内
- 以前、子宮動脈を結紮する手術を受けている
- 妊娠・出産を希望している

子宮筋腫が不妊や流産の原因で、子宮動脈塞栓術後に出産したという報告もありますが、子宮内膜の炎症性癒着が起こる可能性もあり、妊娠には不利になるとも考えられています。結論は出ていません。

- 子宮・卵巢の悪性腫瘍が疑われる
- 子宮筋腫が原因の症状がない
- 骨盤内に活動性の感染・炎症がある
- ヨードアレルギーがある
- 子宮腺筋症(内膜症)の治療が目的

1年間程度は効果がありますが、再発し、追加治療が必要となります。追加治療を念頭に入れて施行することは可能です。



各治療法の長所と短所について詳しくお話しします。

